

福岡事務所は〇二年、福岡出張所に格上げされたが、〇四年に退職。コンサルティングを手掛けるコア・コンピタンス九州（福岡市）を立ち上げた。

くさんありましたが、PB社を立ち上げた時、『森さんは、宅地分譲した付近の約は資産運用のアドバイスに  
んなら信用できる』と応援 千戸の風呂に、ホテルから

郷土愛秘めた再生請負人

した時、『森さんは、宅地分譲した付近の約とる』と応援してくれたの千戸の風呂に、ホテルから出る温泉を供給していました。債権者だった外資系サ―ビサーは不動産を競売にかけて少しでも債権の回収た」

「まだ誰も手を付けてい

ない九州の富裕層に目を付けました。『なぜ地方で？』と首をかしげる人も多かったですが、前任者から引き継いだ二十億円だった顧客の預かり資産は、私が退職した二〇〇四年夏には五百億円まで膨らみました。九州で仕事する際はホテルに泊まっていたましたが、顧客から「移動しながら商売する行商みたいだ」と笑われるので、上司を説得し〇一年一月に福岡事務所を開設しました」

「将来は地元の特産品に投資したい」



森 大介氏

年商三十億円の地元メー  
カーの経営再建など、派手  
さはないが、経営者から感  
謝されたときの充実感は何  
ものにも代え難い。

をしようと主張しましたが、ホテル側のアドバイザーだった私は反対し、外資系サービサーが持つ抵当権の抹消登録を熊本地裁に申

「シテイ時代は、ヘッジファンドなどリスクの大きい金融商品をあえて顧客に勧めなかったのも、東京の上司からは『君みたいな消極的な社員は初めてだ』と言われました。私が退職した直後、シテイは法令違反による金融庁の業務停止命

「経営破綻したノリ業者のスポンサー選定にも携わり、毎日朝七時に起きて福岡市から電車で熊本県に通いました。はつきり言って、もうかる話は半分にも満たないですが『地元に貢献している』というやりがいがあります」

市に立ってました。結局、福岡市の不動産会社が営業譲渡に応じたため、従業員の8割の雇用も確保できました」

九電工などが出資する「チャレンジ九州・中小企業がんばれファンド」を運営。成長力が高い九州の中

令を受けました。収益第一「昨年三月から熊本市の主義の考え方が、根底にあったからだと思います。会った。ホテルを経営する会社

小企業を発掘している。

「九州を飛び回り、一週間のうち半分も福岡市にいません。二年程度で、約二

もり・たいすけ 67年(昭和42)生まれ。熊本市で生まれ、父親の仕事で十二歳の時に東京都へ。都立戸山高校一年生の時に両親が熊本市に戻り、兄と東京で二人暮らしに。中央大法学を91年に卒業し、「バブル最盛期で、一番派手そうな仕事をしてた」「日本長期信用銀行(現新生銀行)に入社。シテイバンクを経て、04年にコア・コンピュータンス九州を設立。「コンピュータ会社に間違えられることが多い」といい、10月に社名を「ドーガン・アドバイザーズ」に変更する。

十社に計十億円を投資します。将来は自社でファンドを設立して、めんたいこや焼酎など地元の特産品に投資したいです」

(西部支社 花房良祐)